



芦屋「九条の会」ニュース

発行責任者：片岡 隆 連絡先 090-7118-2312

<http://ashiya9.web.fc2.com/>

安倍政権に未来は託せない

暑い夏であった。観測以来初という 40℃を越えた気温のこともあるが、私たちの心の中の怒りの温度のことである。国会前は、「戦争法反対」を訴える 10 万人を超える人々で埋まった。国会前だけでなく、全国各地で、憲法を無視する法案に、それを強行採決しようとする安倍政権に怒りの声が挙がった。異常な様子を国民の前に晒しながら、強行採決したことに対し、反対の声は今も挙がり続けている。歴史家のバーバラ・W・タックマンは、国民的利益を損なう為政者の愚行を分析して「予想とは違う兆候があるにもかかわらず、そこから真実を推し量ろうとしない」「自分の権力基盤を補強するために政治的資源を私物化する」「選択肢があるのに愚かなほうを選ぶ」と説いた（*1）。政治的資源の私物化には、例えば NHK への介入で公共放送を支配下に置いていること、死票 48%を出し、得票率 48%で 76%の議席を得た小選挙区制を最大限利用し、改革には消極的なことなど枚挙に暇が無い。まさに安倍政権はこの愚行を行っていると言えるであろう。同時にそれを許している背景には、国民の無関心、余裕の無さ、頂点同調指向などがあることも私たちは自覚しなくてはならない。



私たちは、民主主義をつくり続ける

しかし、この度の一連の経過の中で、私たちは今までに無い新しい動きが生まれたことを知った。SEALDs に代表される若者の運動、「だれの子どももころさせない」と声を挙げた各地の「ママの会」、「こういうことは初めてです」と自分の言葉で訴える女子学生、など平和ボケと揶揄されることもあった街の人々が声を挙げ行動したのだ。

法は通りその後の動きも始まるように報じられているが、議事録にも記載されなかったような手続きが正当であったかとの異議申し立ての動きもある。法律の違憲訴訟も起こるであろう。そのうち冷めるだろうという思惑を跳ね除ける地道な闘いを一緒に続けていこう。

戦争法（安保法制）と同時に問題になるのが沖縄の新基地建設の行方である。翁長知事はジュネーブで開催中の国連人権委員会に出席し、辺野古で進められている米軍基地の建設が人権を侵害していると訴えた。基地建設は沖縄だけの問題ではない。本土に住む私たちは自分のこととして考えそれぞれができる方法で取り組んでいこう。安倍政権の施策は、このほか原発再稼動と輸出、TPP 推進、などいずれをとっても‘生命より経済が大事’であることが明白である。このような政権に私たちの未来を託すことはできない。

*1 内橋克人「強者の欲望に寄り添う権力の下で」『世界』2014年11月号

